

## IJEC 論文掲載許可獲得報告

第8期生 住川 正好・中村 梓・奥野 朱子

### ◆IJECとは...?

第8期インゼミ 兼 英語論文執筆プロジェクト・チームは、1人でも多くの人に論文を見てもらいたいという熱い思いから、第7期英語論文執筆プロジェクト・チームに続き、マーケティング発祥の地アメリカの主要な言語である英語で論文を執筆して、学者と学生が分け隔てなく発表できる海外の学会に投稿し、審査を経て発表権を得るということを目指した研究プロジェクトに取り組んだ。そんな我々が、昨年度、投稿先として選択したのが、eビジネス専門誌の中でもトップランクのジャーナル、*International Journal of Electronic Commerce* (通称 IJEC) だった。ちょうど投稿募集中だったモバイルコマース (m-commerce) の特集号に投稿したところ、およそ9ヶ月の審査期間を経て60本の投稿論文の中から厳選された5本の受賞論文の中の1本として選ばれるという栄誉に浴した。ただし、そこはさすがにトップ・ジャーナルだけあって、その5本には、その後もそれぞれ厳しい修正要求が突きつけられた。卒論と同時並行的に2年越しの当プロジェクトに取り組み、2度の修正を施した論文は、投稿時の論文とは質・量ともに異次元の論文になっていった。そして、今週2012年2月7日、ようやく論文掲載許可の正式な通知を頂いた。

### ◆執筆論文の概要

#### Consumer Motivations in Browsing Online Stores with Mobile Devices

In this study, we examined the effects of consumer motivations on browsing online stores with mobile devices, and compared them with those on browsing physical stores. The results of the simultaneous analysis in multiple populations with structural equation modeling showed that four kinds of motivations affect browsing mobile-based online stores, whereas three motivations affect browsing physical stores. This study implied that idea motivation is the most important determinants of both mobile and offline browsing. Also, it is implied that adventure motivation and value motivation are important for mobile-based online stores, whereas gratification motivation is important for physical stores. This is the first study to examine the determinants of browsing intention both in physical stores and mobile-based online stores and will contribute to our understanding of browsing activity.

#### ◆執筆後記（第8期生 住川 正好）

2010年の末、我々第8期英論チームは、英語で三田論を書き終えたものの投稿先が定まらず、窮地に立っていた。第7期英論チームが投稿し我々も投稿しようとしていた学会が先方の事情により開催されなくなってしまったのである。せっかく英語で完成させたにもかかわらず、この論文を評価してくれる投稿先が無くなってしまった。予想外の事態に狼狽しかできなかった著者であったが、小野先生が一縷の



論文修正の嵐の前の静けさに、9期女と現を抜かず住川（左端）

望みのごとく *IJEC* という投稿先を提案してくださった。このような経緯で、第8期英論チームは、学会ではなくジャーナルに投稿する事に初めて挑戦したわけであるが、ジャーナルに掲載されるという事の厳しさを今回の執筆活動で嫌というほど思い知らされた。この経験が自分の自信となり、次のタスクへの取り組みに活かされることは間違いないだろう。ただし、今回反省すべきことはあまりに多すぎるため、その作業に今しばらく時間がかかりそうなのは否めない。今後の自分を温かく見守ってくださればありがたい。

最後に、この英論投稿という活動に関わってくださった全てみなさんにこの紙面をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。まず、英論チームの2人。3年次だけでなく、4年になった今年度も迷惑ばかりかけてしまい、本当に申し訳ないです。そして、ありがとう。メンバーがあずと奥野でなければ、論文は進まなかったと思います。千葉さん。4人目のインゼミメンバーとしていつも悩んでいる私達3人に力を貸してくださり、ありがとうございました。千葉さんと作業していると、教えてもらうだけでなく、一緒に成長していく瞬間もあって、そのバランスがとても楽しかったです。そして、小野先生。*IJEC* に関しては、初めて共著者として一緒に活動してくださりました。共著論文とは何かという初歩的なことをはじめとして、今回の執筆活動を通じて非常に多くの事を学ばせていただきました。それと同時に自分のダメな所を露呈してしまい、先生に非常に多くのご迷惑をおかけしてしまい、申しわけございませんでした。昨年末の28日、スタバで先生と一緒に執筆作業を一日中させていただいた経験は決して忘れません。最後まで英論チームを正しき道に導いてくださり、ありがとうございました。

#### ◆執筆後記（第8期生 中村 梓）

今だから言えるけれど、英論メンバーの2人の第一印象はあまりよくなかった。たぶん仲良くなれないだろうとさえ思った。笑 春合宿で論文チームが決定した時、草食系と思いきや意外と毒舌な住川と、いかにも関西出身！というおしゃべりなあやこに挟まれたら、人前で意見を言うことが苦手な私は萎縮して



英論チームの3人(右から、中村、住川、奥野)

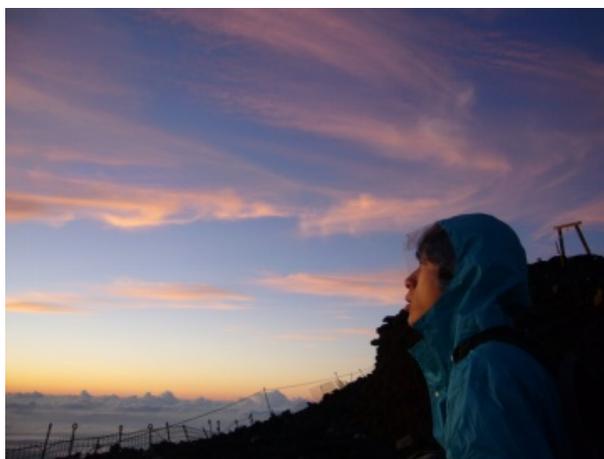
皆妥協しないで英論に取り組んでいたということでもある。今回身の丈に合わないような雑誌掲載内定の榮譽に浴することができた理由は、この辺にあるのではないだろうか。2人とも、自分と気が合いそう、と思って手を組んだ仲間ではなかった。しかし、だからこそ、たくさんの刺激を受けて新しい自分と出会うことができたし、自分の限界とと思っていた地点を越えられたような気がする。住川、あやこ、本当にありがとう。

ここで、英論を支えてくださった皆さまにも感謝の気持ちを申し上げます。特に、三田祭前も、2度の修正時も、ヘルプをお願いするといつもピンチを救ってくださった千葉さん。千葉さんの名前をさりげなく著者名のところに加えておこうか、と真剣に思ったこともあるくらい、感謝しています。本当にありがとうございました。そして、問題だらけの英論を最後まで見捨てることなく、ご指導くださった小野先生。これほど迷惑をおかけしたゼミ生は歴代にいないのではないかと思います。そんな申し訳なさも感じますが、それ以上に感謝の気持ちでいっぱいです。わざわざスタバに来ていただいたり、3徹して修正に携わってくださったり…ここに書ききれないほど感謝しています。本当に本当に、ありがとうございました。

#### ◆執筆後記(第8期生 奥野 朱子)

3年生の春合宿、著者は悩んでいた。マケ論に入るのか、人の少ないインゼミ兼英論に移るべきなのか、と。結果はご存知の通り、著者は8期インゼミ兼英論メンバーとなり、めでたくIJECからの掲載許可の通知をいただけることとなった。

変テコなチームであった。つかず離れず。住



奥野の富士登山のパートナーは、皆も驚いたことに住川だった…。

川ほどそりが合わない人はこの世に存在しないだろうと思うのに、なぜかこの夏には2人で富士山に登頂したり、同期生の中で一番仲が良い（と著者は思っている）あずにゃんとは、一度も二人で遊びに行ったことがなかったり…。そして口論の絶えないチームであった（多くの場合は著者の短気な性格が引き金となっているのだが）。しかし、それぞれが不満を抱えることなく本音を言ってくれているという安心感がそこにはあった。小野ゼミ以外ではあまり交流もなく、本気で嫌いになることもあり、反面、尊敬できる点もある。そういった意味で2人は家族のような存在である。心の中に土足で入り込むような性格の著者と共に過ごしてくれた、住川とあずの忍耐には感服せざるを得ない。本当にありがとう。そして、忘れてはなら



ゼミ内では仲良しに見えた中村と奥野だったが…。

ないのは最後の英論メンバー、第5期OBで大学院生の千葉さん。昨年度は修士論文の執筆でお忙しいにもかかわらず、英論合宿出席率は極めて高く、我々が助けを求めると、必ず手を差し伸べてくださった。言葉では言い尽くせないほど感謝しております。ありがとうございました。

最後になりましたが、小野晃典先生、指導してくださった大学院生、7期生の方々、同期生たち、そして8期英論の礎を築いてくださった第6期インゼミチームの方々に感謝の言葉を送りたいと思います。特に、我々のようなチームを最後まで見捨てることなく、粘り強くご指導してくださった小野晃典先生には、感謝しても、し足りません。最初から最後まで不手際が多く、手のかかるチームで申し訳ありませんでした。本当にありがとうございました。



富士山登頂に成功し、ご来光を眺める奥野